

| | | |
|--------------------|-----------|---------------------|
| 発表者 | 横湯久美 | (絵画研究室 准教授) |
| 公開授業(分野): | 「絵画表現Ⅲ・Ⅳ」 | 専門科目○ |
| 対象学年(履修区分): | | 絵画3年 必須○ |
| 公開日時: | | 平成28年度10月03日(月)1・2限 |

■ 公開した授業の該当科目全体における位置付け・進め方や工夫した点

位置付け

・ この「絵画表現Ⅲ」は「絵画表現Ⅳ」の導入にあたるものです。これらの授業では、3年次のこの時期までに経験してきた様々な技法や表現から、テーマや手法を選択し、制作から発表までのプロセスを総合的に体験します。また、大型絵画・80号以上の制作をする初めての機会ともなります。最終的には絵画コース3年「進級制作展」として学内での発表を目指します。

・ 授業は幾つかの制作にともない、日々のチュートリアル形式での指導、数回の講評会、コンセプトシートの作成等で構成されています。(15号程度のエスキース制作。80号以上の本制作。スケジュール表、展覧会プランの作成。7回の講評会)

・ 三種のタイプのレクチャーを度々行います。

① 大型絵画のための作り方レクチャー ② アーティストになるための考え方レクチャー ③ アーティストになるためのミニ知識レクチャー

進め方や工夫した点

・ 短大卒業制作と専攻科修了制作の二つによる学習成果をどのように、四大の授業に置き換えていくのかを考える中で生まれた授業であることを示しました。そうすることで、トキワ松学園女子短期大学、横浜美術短期大学、横浜美術大学という50年間の歴史の上に、本授業が成立している授業であることを伝えました。伝統の中でアカデミックに学ぶ、喜びと誇りを感じてもらうためです。トキワ松学園100周年の節目である今年度でありより強く伝わったことと思います。

・ 「なりきりアーティスト」→「自称アーティスト」→プロの「アーティスト」というキーワードを示し、アーティストの人生を大まかに感じさせようと試みました。どのような心持ちでいることが、ファインアートを学ぶ美大生の理想的な在り方なのかを感じさせようと努めました。これらは専門コースを最終選択し、就職活動でひどく慌てることのない、3年次だからこそ、しっかりと伝えられる内容であると思っています。

・ 3年のこの時期までに、制作上の一通りのことをざっくりとであっても、学ばせておこうと工夫しました。そうすることで、4年次では、個々のテーマや課題により深い指導に集中できるのではないかと思います。また今後、ゼミ制の導入もあります。あらゆる意味での新しい状況にあって、4年次の指導を行なう必要が出てきますが、そのような中でも、内容や質の確保は可能になるのではないかと期待しています。

■ 参加者や研修会での意見交換を踏まえ、次年度への改善計画等

参加者からの感想・アドバイス・評価等

- ① 当該授業の習熟度を増すために、授業外に伏線となる様々な工夫がされた取り組みを行っており、学生の成長を促すに当たり大きな成果となっていた。
- ② パソコン、プロジェクター、ホワイトボード、配布プリントを使用した非常に丁寧な課題説明である。プリントとプロジェクターを組み合わせることにより、学生にメモを取らせる工夫がある。
- ③ 授業の導入として、前半は文字情報を主体としたプレゼンテーションであり、学生の授業のイメージを限定させない、イメージを喚起させる仕組みとなっている。その後、後半に初めて写真、参考作品など具体的なイメージが登場し、最後に過去作品を提示するというプレゼンテーションの組み立てが素晴らしい。
- ④ 日々のスケジュール管理から、高年次における制作への姿勢、心構え、そして卒業後の未来に向けた時間軸を提示することにより、学生へ人生の道筋を与えている。
特に「なりきりアーティスト」→「自称アーティスト」→プロの「アーティスト」という、学生時代から社会に出た後を説明し、プロのアーティストとしての未来を想像させ、明確なイメージを持たせることに成功している。
- ⑤ 質疑応答、問いかけを積極的に取り入れ、学生とのやり取りを重視している。
- ⑥ キャンバスの張り方、木製パネルの作り方等々、基礎の復習もここで取り入れている。
- ⑦ ニコマ続きの授業を全部制作にあてるのではなく、プチゼミとして最後の30分をディスカッションにあてる授業の組み立ては大変参考になった。
- ⑧ 非常にきめ細やかな指導を行っており、ハマ美生との付き合い方に適している教育であると感じた。
- ⑨ 授業以外での意見ですが、大学でのファインアートの存在は、美術大学としての存在意義や根本と直結していると思われます。自己表現である学生の作品を、より多くの人の目に触れさせる場所や機会を作るこのとも大学の存在価値であると考えます。時代の移り変わりの激しい中、大学側がどのようにして人とアートの接点を作っていくのが今後の課題です。

次年度への改善計画

今年度から、3年前期に学内共通テーマでの授業が行なわれています。新しい授業の様子もだいぶ見えてきました。来年度は二つの学内展の関連性を踏まえることに重点を置き、本授業を改善していきたいと考えています。

■ その他

授業時 配布資料

- ① スケジュール早見表／「平成28年度 絵画表現Ⅲ・Ⅳ 進級制作展 スケジュール早見表」1ページ
- ② スケジュール表／「平成28年度 絵画表現Ⅲ・Ⅳ 進級制作展 スケジュール表」4ページ
- ③ 授業レジュメ／1ページ